



碧南ロータリークラブ週報

第3002回例会 令和4年1月19日(水)

- 会長 新美 雅浩
- 幹事 栗津 康之
- 会場監督(SAA) 岡本 耕也

2021-2022 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

- 会報委員 石川鋼勇・鈴木 洋・藤関孝典・小林 尚

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

碧南海浜水族館 館長 森 徹 様

会 長 挨 拶

改めまして、皆さん、こんにちは。先週から厳しい寒さが続いておりますけれども、市中ではオミクロン株によるコロナウイルスの感染拡大の勢いがとどまらない状況でございます。社会経済活動が大変停滞しているということで、連日、懸念されるという情報が流れておりますけれども、濃厚接触者で陰性の



新美雅浩会長

方の隔離期間の見直しなども叫ばれているところでございます。エッセンシャルワーカーに限らず、我々のような中小企業事業者に対しても一刻も早い政治的な判断をしていただき、経済がうまく回るような大胆な政策に期待したいというふうに考えております。

1 月が職業奉仕月間ということで、先ほど碧南海浜水族館の館長であります森様をご紹介致しました。本来ですと、職場に訪問させていただいて、職業奉仕の実情を垣間見させていただく訳ですけれども、昨年一昨年現場には行けない状況になっておりますので、コロナ禍ではございますけれども、本日はわざわざ森様にお越しいただきました。どうぞよろしくお願い致します。

職業奉仕月間ということで、職業奉仕に因んだお話を取り上げさせていただきたいと思っております。今から十数年以上前になるんですけれども、リーマン・ショックという大恐慌が世界経済を襲いまして、大きな被害を受けました。それ以来、我々企業に対して公益性や社会性を非常に期待する声が世界中で広がり始めております。最近で言うと、SDGs という考え方ですね。あるいは、カーボンニュートラルもその 1 つだと思います。また、コロナウイルスの感

染拡大も手伝いまして、企業に公益性を求める声が一層高まりを見せている状況でございます。そして、資本主義の経済の中で企業は公益を第一とすべしということを世界中の誰よりも早く説いた実業家というのが、昨年何かと取り上げられました渋沢栄一さんであると言われております。大河ドラマの中でも渋沢栄一さんの理念が所々で取り上げられておられました。渋沢栄一さんの経営哲学の根幹の中に「経済を発展させてもその利益を企業が独占してはならない。国家を豊かにするために富は国全体でシェアし、社会に還元するべきものである。」というものがあまして、よく紹介されておられます。公益を第一にして、私利は第二である。つまり、他人の利益を第一に考えて誠実に振る舞えば、行く行くは自分に十分な利益が回ってきて、経済が循環するといった考え方でございます。これは正にロータリーで言う Service Above Self (超我の奉仕) という標語にも表れているところでございます。Service というのが第一であって、第二に Above Self。つまり、きちんと利益を上げて、幸福生活をする自分があるという考え方で、酷似しているということでございます。

一方で歴史の流れを辿りますと、18世紀にアダム・スミスという有名なイギリスの経済思想家が述べられた理論でございますけれども、「市場経済は各個人が道徳を守って正しく商売をし、自己の利益を追求していけば、やがて見えざる手が働いて、経済や社会全体に秩序が生まれて繁栄していくものである。」という考え方がございました。ところが20世紀に入って、その理論に対して様々な矛盾が生まれてしまいまして、その見えざる手というものが十分に機能しなくなったという歴史がございます。そういった背景の中からロータリーの不易の理念であります奉仕の理想が誕生したというようなことも言われております。ところがその歴史の流れよりも更に遡りますと、そのようなロータリーの考え方よりも何年も前に渋沢栄一さんが独自の経営哲学を描いておられました。同じような考え方を追求していたということになります。

渋沢栄一さんが考えた経営哲学とロータリーの基本理念である職業奉仕の考え方が極めて酷似していて、渋沢栄一さんがロータリーよりも前にそれを唱えていたということを改めてお伝え申し上げまして、本日の会長挨拶とさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第7回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ ガバナー事務所経由、愛知県警察本部生活安全総務課様より「地域安全対策ニュース」が届いております。



粟津康之幹事

委員会報告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 63 名 (内出席免除者 13 名の内出席者 9 名) 出席者 47 名	
出席対象者 47/59 名	出席率 79.66%
欠席者 16 名 (病欠者 1 名)	

<ニコボックス>

- 山中 寛紀君 先週例会では、新年一番にバースデイの素晴らしい花を頂き、有難うございました。
- 杉浦 保子君 本日の職場例会の講師、碧南海浜水族館 館長 森徹様の紹介をさせていただきます。

職場例会

「碧南海浜水族館のお仕事」

碧南海浜水族館 館長 森 徹 様



森 徹 様

皆様、こんにちは。只今ご紹介をいただきました碧南海浜水族館 館長の森でございます。本日はこのような日々ご活躍をされている経営者の皆様の集いにお招きいただきまして、誠にありがとうございます。いつもとは違う世界なんです、水族館の世界、水族館のお仕事ということで、本日はお話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

早速ですが、始めさせていただきます。私は元々、福岡の大きな水族館に勤めておりました。こちらの写真はマリンワールド海の中道という施設でございます。当時、建設省が建てた大きな水族館でございます。この建物はバームクーヘンのような扇形をしているのですが、左半分が平成元年にオープンしまして、残りの右半分が平成 7 年にオープンしました。私はこちらの中で様々な活動をさせていただきましたけれども、更地の時からこの建物を立ち上げる作業に加わらせていただいております。こちらの写真が一期工事オープンをした時の様子です。ご覧の通り、向こう側に面しております海は博多湾です。博多湾をジャンプするイルカというイメージで見ていただくショーということで設定をされております。そして、二期工事オープンの写真がこちらでございます。二期工事オープンにつきましては、魚主体、社会教育主体のオープンということで、大きなサメの水槽をはじめとしまして、様々な活動ができる水槽を作りました。私はこの写真に写っておりますシロワニという大きなサメを日本で初めて展示するというプロジェクトにも参加をしまして、オーストラリアから持ってくる作業などをしました。

そして、ご縁をいただきまして、2010年から碧南の地にお世話になっております。この時は禰宜田市長のマニフェストの中に水族館のリニューアルがありまして、そのお手伝いをさせていただくということで、活動を始めております。まず、こちらに来まして始めたのは、館内アンケートです。お客様がどういったものに対して不満を感じていて、どのような施設を望んでいるのか、どのような活動がしたいのか、そういったものを今一度確認をしたいということで、館内調査から始めております。日々のアンケート調査、引率をされる方々への調査、そして、最終的には市民アンケートということで、今後の水族館の展開を計画しまして、進めております。そんな中、市議会に提出しましたリニューアル構想の中の一部が2019年3月に実りまして、碧南海浜水族館のリニューアルオープンを迎えることができました。その時の様子の写真がこちらなんですけれども、沢山の市民の方に来ていただきまして、長らくご愛顧いただきました古い施設から変わりました中をご覧くださいということで、皆様に喜んでいただいているところでございます。このリニューアルオープンのメインとなりますのが、ビオトープ型の屋外施設です。ここでは絶滅危惧種の繁殖地ということを目的にしております。そして、自然体験ができる場所であるといったようなこともコンセプトに入っております。この他にも大きな水槽をリニューアルして、中を綺麗にして見やすくさせていただきました。

施設の中で特に皆様のご好評をいただいておりますビオトープは、今はだいぶ草木も生えまして、緑がとても綺麗な施設になってきております。6月になりますと、燃えるような緑がどんどん広がっていきまして、水生昆虫や野鳥などが集う場所になってきております。この中では様々な活動をしておりまして、1つはボランティア活動です。今まで私たちはボランティアというものを受け入れることはしませんでした。なぜかと言いますと、お金をお支払いして何か作業をしてもらうことよりも、ボランティア様に充実感を持ってもらうことや何かの役に立ったという満足感をちゃんと得てもらえるだろうかというのが凄く心配でして、長らくしてなかったんですけれども、このビオトープを作るに当たってのコンセプトである市民協働ということはこの場でこれからは継続していこうということでやっております。

今では絶滅危惧種のニホンイシガメが毎年産卵するようになりました。その子たちが1世代目、2世代目、3世代目と育っております。自然の池や川に戻せるような数になってきておりますので、ビオトープの中で少し様子を見てから戻していこうという活動を計画しております。

年に何回か観察会がありまして、こちらの写真はトンボの観察会の様子です。私たちはこのビオトープに遺伝子のわかっている植物と若干の絶滅危惧種であります魚類の放流をしただけです。それ以外は一切入れておりません。そこに水生昆虫が飛んで来て、ここで産卵をしていきます。ですので、私たちが作ったこの自然のモデルというものを小さな生き物たちに認めてもらえ始めているといったようなところでございます。現在では20種類近くのトンボが飛んで来ていまして、ヤゴも10種類ぐらいは確認をしております。そんな中で私たちが子供の頃に普通に遊んでいたようなことが、今の子供たちにはなかなかできない経験もありますので、講師の先生のお話を聞きながら、トンボに触ったり、ヤゴの観察をしたりといったことをしております。

こういった一連のビオトープの活動なんですけど、実は全国の水族館がこちらの写真のような仕事の繋がりを日々持っております。水族館の仕事は、餌をあげたり、水槽の掃除をしたりすることだと思われがちなんですけれども、それ以外にも飼育管理をするためには生き物に対する健康管理、その生き物が生活をしていく環境管理をしないとイケない。その飼育管理ができてこそ、動物のショーや解説活動、絶滅危惧種などの繁殖活動、そして、それが巡って自然保護活動に繋がっているということをご様に提供するのが展示管理という繋がりになっております。この展示管理を通じまして、私たちが目標としております社会的役割がレクリエーション活動、教育活動、研究活動、自然保護活動です。この4つはどの施設も意識をしながら日々の活動をしているんですけれども、この中で絶対に捨てられないものが各施設でそれぞれ違います。これが各施設の特徴に繋がっています。碧南海浜水族館は、経営者は碧南市ではあるんですけれども、碧南市教育委員会です。ですので、教育委員会が作った水族館が絶対に捨てられないものは、教育活動な訳です。これから皆様が多様な水族館に行かれる時に4つの内のどの社会的役割があるのかということを観察していただきますと、いつもとちょっと違う見方になるんじゃないかなと思います。

それでは、水族館の活動について1つ1つ紹介をさせていただきたいと思います。まずは、生き物を採集する活動です。生き物は購入することもありますけれども、他の水族館では真似ができないような生体展示をする上では、私たち自らの調査や収集活動がとても大事になります。この活動は年に数回、現地の水族館や漁師さんのご協力をいただきながら行っております。

次に生涯学習です。今日も皆様の前でお話をさせていただいておりますけれども、読み書きがあまりできない小さな子供たちには、絵を描きながらお話をしております。小学生の子供たちには、実験をしながら情報を伝えております。これも大事な仕事の1つでございます。

次に市内小中学校の授業です。これは全国の水族館を見ても、碧南海浜水族館だけです。市内の小学校、中学校に出向きまして、そこで授業をします。教科書に載っている題材の生き物を連れて行って理解を深めるといった活動も私共職員がやっているとても大事な仕事でございます。この活動は40年前からやっております、今後も続けていきたいなと思っております。

次に中学生の職場体験やキャリア教育です。碧南海浜水族館では、学芸員という国家資格を取るための博物館実習というものを受け入れております。私がこちらに来て11年になりますけれども、これまでに博物館実習、水族館実習を受講した学生さんの中で、12名が動物園や水族館に就職することができました。そういった方々がまた後輩を育てるといったようなところでは、碧南海浜水族館がコアになっているんじゃないかなというふうに思います。

次に潜水業務です。最近では年末の大掃除を風物詩ということで、テレビで取り上げていただくことが多いんですけれども、職員が水の中で作業をするというのもとても大事な仕事でございます。この写真は水槽の中なんですけれども、海に潜って調査をするということも稀にあります。

次に調査活動です。こちらの写真の左側の魚に見覚えがある方もいらっしゃるかなと思うんですが、2、3年前に名古屋城のお堀で捕獲されたアリゲーターガーです。実はあの時に2

匹のアリゲーターガーが目視で発見されているんですけれども、その内の 1 匹が碧南海浜水族館でホルマリン漬けの標本になりまして、皆様に見ていただいております。こういったことも大事な情報として提供しております。

次に種保存活動です。私たちが全国の水族館の中でも担当となって長年務めていますのが、カワバタモロコとウシモツゴという種類で、ご年配の方であれば子供の頃に見たことがあるかもしれませんが、今は自然の川や池では見られません。ですので、飼育施設でないと見られない種類になってしまっている訳ですね。これが絶滅するとどうなるかということも想像しまして、巡り巡って私たちの人の社会にも繋がってくるということで、警戒をしないとイケないと思っております。

このような活動の先には、研究活動がございます。研究活動は様々な分野があります。絶滅危惧種を絶滅しない方法を考えるというのは、簡単な言い方なんですけれども、そういったこともとても大事な研究テーマでもありますし、その生き物が疾患を負った時に安全に治療する方法を研究するというのもとても大事であります。今まで繁殖のメカニズムがわからない生き物の生態を観察して研究するというのもとても大事な研究テーマになります。このような研究活動というものは、目立つ時はなかなかないんですけれども、日々の調査が行く行くは皆様に紹介する場で使われるというようなところでございます。

次にマスコミ対応です。こちらの写真はぐっさんです。テレビに出るといってもとても大事な仕事です。最近、ちょこちょこ取り上げていただいているんですけれども、私たちの使命は情報を提供することですので、マスコミに対してもとても大事に取り組んでおります。

このような様々な業務を皆様に紹介をさせていただきました、全国の水族館で取り組んでいる業務、そして、碧南海浜水族館ならではの業務ということを織り交ぜながらお話をさせていただきましたが、実はこういった活動というものが SDGs に繋がっております。SDGs の中で碧南海浜水族館が該当するのは、「質の高い教育をみんなに」、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「働きがいも経済成長も」、「海の豊かさを守ろう」、「陸の豊かさを守ろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の 6 項目です。これに対して、これからもアピールをしていこうということで、職員一同取り組んでおります。

こういった活動を踏まえまして、水族館として皆様に伝えたいこと、気付いてほしいことがございます。それは、私たちは動物として、生きることを決してあきらめないこと、生き残る工夫をすること、自分の遺伝子を残すこと。これは人だけではなくて、全ての野生動物がクリアしております。残念ながら、多様化している人の社会の中では、この大事な目標を見失っている方も非常に多くなってきているんじゃないかなと思います。水族館や動物園で生きた動物の営みを見て、自分に備わっている能力を再認識して気付いてもらえたらと常々思っております。もう 1 つは、人として、弱いものを思いやること、何かの役に立とうとすること、未来を予想して備えること。これは野生動物にはできないことです。私たちが押し付けてできるようなことではありませんので、楽しい環境、くつろげる環境を用意した上で、何気なく見ている中から気付いてもらえるような努力を私たちはしないとイケないかなと日々思っているところでございます。

ありがとうございました。

次回例会案内

令和4年2月2日（水）

クラブフォーラム「碧南市の国際交流事業を振り返って」

碧南市友好親善協会 会長 松井高善氏